

子宮頸がん検診受診向上 のためのアンケート調査

—AYA世代を中心に—

Morino

Hitomi

森野 ひとみ

奈良教育大学 家庭科教育講座

子宮頸がん検診受診向上のためのアンケート調査

－ AYA 世代を中心に －

奈良教育大学 家庭科教育講座 森野 ひとみ

1. はじめに

子宮下部の管状の部分を子宮頸部、子宮上部の袋状の部分を子宮体部と呼び、それぞれの部位に生じるがんを子宮頸がん、子宮体がんといいます。子宮頸がんは子宮がんのうち約7割程度を占める。以前は発症のピークが40～50歳代でしたが、最近では20～30歳代の若い女性に増えてきており、30歳代後半がピークとなっています。^{〔1〕} 初期には、ほとんど自覚症状がありません。しかし、進行すると、不正出血、性交時や性交後に出血する接触出血、おりものの量の増加、下腹部痛を起こす等、様々な症状が出てきます。国立がん研究センターの調査によりますと、子宮頸がんの罹患者数は、年間10,879名（2019年）で、死亡者数は、2,894名（2021年）人でした^{〔2〕}。毎年、1万人強の人が罹患し、3,000人弱の人が死亡している現状です^{〔3〕}。

最近では、「AYA（Adolescent and Young Adult）世代がん」と呼ばれる15～39歳の間には発生するがん（悪性腫瘍）が多くなってきている現状があります。しかし、日本におけるAYA世代の検診率は、わずか7%と極めて低いです。AYA世代の検診受診率は勿論、日本に検診受診率を向上させるため、以下に示す研究を行っています。

本研究では、「AYA世代がん」になる前に、子宮頸がん検診を受診することで、早期発見、早期治療、予防ができるにもかかわらず、AYA世代の検診受診率が低いため、AYA世代がどうすれば検診・受診をしに病院に行

ってくれるのかをアンケート調査し、その結果を報告します。

2. 調査方法

15-39歳の日本全国の女性2,144名に、子宮頸がん検診についてのアンケート調査を行いました。アンケートは、2023年1月4日-2023年1月10日にWebによる回答形式で実施しました。アンケート調査方法は、GT法を用いました。

2020年2月23日-2020年2月25日までの期間に、20-30歳代の女性100名に、独自調査したアンケートの回答結果では、「子宮頸がんの検診・受診をしたいと思わなかった」または「あまり検診・受診をしたいと思わなかった」と回答した割合が30%であり、検診・受診を受けようとしている若者の割合も増えているように見受けられました⁽⁴⁾。しかし、20-30歳代の若者の検診受診率は依然変わらない現状でした。また、同アンケート調査で、子宮頸がん検診・受診をしたくない理由について問うたところ、①産婦人科に行くことが恥ずかしい、抵抗があるから（40%）②どのような検査をするか分からないから（26.7%）③仕事などで時間が取れないから（26.7%）④検診・受診をしなくても遺伝子的に、私は罹患しないと思っているから（16.7%）⑤自宅近辺に男性の産婦人科医しかいないから（13.3%）等の回答を得ました⁽⁴⁾。そこで、今回のアンケート調査では、「どんな方法であったら子宮頸がん検診を受けますか」という1つの質問だけを調査分析することを目的とし、アンケートを実施しました。

3. 結果

アンケート調査で回答を得た女性の年齢別の割合は、15-19歳が21.8%（467名）、20-29歳が66.6%（1,428名）、30-39歳が11.6%（249名）です（図1）。20-29歳の回答数が最も多かったことが分かりました。

次に、「どんな方法であったら子宮頸がん検診を受けますか」と問いました。その結果を図2に示します。「自宅で採取できる検査キットを誰かがくれたら」と回答した人が60%（1,286名）を占めており、次いで、「女性医師だったら」と回答した人が22%（472名）、「服をどこまで脱ぐか分

かったら」と回答した人が14%（300名）、「診療台の乗り方が分かったら」と回答した人が4%（86名）であることが分かりました。

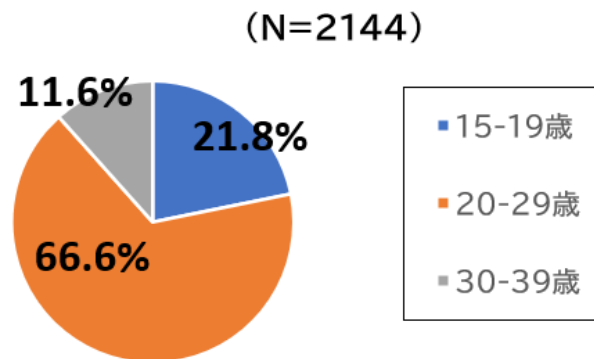


図1 アンケート回答者の年齢別の割合(%)

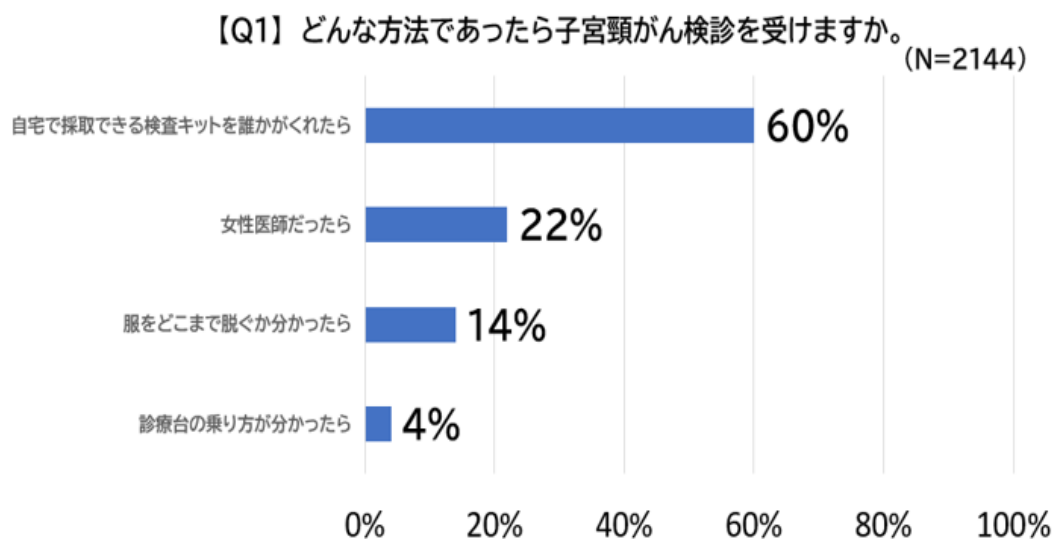


図2 子宮頸がんに関するアンケート調査結果

4. まとめ

「自宅で採取できる子宮頸がん検査キットを誰かがくれたら検診・受診に行く」という回答が最も多く、産婦人科に行くことへの抵抗や恥じらいと高額な検査費用がかかるためと考えられます。現在、特許出願申請中の組紐・PLLA（ポリL乳酸繊維）糸およびY字型異形断面を用いた子宮頸がん用細胞採取ブラシ（6種類）は、自宅で採取できる検査キットをできる限り安価で提供できるようにしていく予定です。本開発が進めば、産婦人

科へ行くことへ抵抗や恥じらいのある人は病院で検査をすることなく、自宅で採取でき、検査の予約も必要なく、個人の時間を使うことができ、医師の性別を気にする必要もなくなります。また、子宮頸がんの原因であるHPV（ヒトパピローマウイルス）は、性交渉により感染するため、男性にも影響を及ぼすことが近年分かってきました^{〔5〕}。今後、男性が産婦人科を受診することも予想されますが、産婦人科への受診に抵抗のある男性が大多数になることも想定され、自宅で採取できる検査キットの開発は有用であると考えられます。

病院で服をどこまで脱ぐのか、診療台の乗り方等は、子宮頸がんの基礎知識と並行して学ぶことができる場を設けることが極めて重要であり、がん教育やそれらの啓発活動がまだ足りていないことが分かりました。そのため、啓発活動は勿論、高等学校までの教育課程や大学等の教育機関でのがん教育を積極的に行うことが今後の課題となります。

今後の課題と展望

1. 今回は、組紐・PLLA糸とY字型異形断面を用いた子宮頸がん用細胞採取ブラシを試作しましたが、PLLA糸とY字型異形断面は同じで、組紐をミサンガに変えて、子宮頸がん用細胞採取ブラシを作り、吸着量を測定し、比較検討を行います。
2. 近年中に、検査キットを作製することは可能になりますが、細胞採取後、子宮頸がんの有無の判定をしてもらうための専門業者を依頼しなければなりません。しかし、多額のお金が必要になります。できるだけ安価で判定ができる手段を考えていきます。

謝辞

本研究を遂行するにあたり、アンケートのご回答を賜りました2,144名の女性の方々に、謹んで深甚なる感謝の意を表します。

<引用文献>

- 1) https://www.jsog.or.jp/modules/diseases/index.php?content_id=10
- 2) https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/17_cervix_uteri.html
- 3) 厚生労働省.“広報誌「厚生労働」2022年5月号”2022
- 4) 森野ひとみ. ポリ L 乳酸繊維糸および組紐を用いた子宮頸がん用細胞採取ブラシの研究開発と子宮頸がんに関する若者へのアンケート調査. 日本家政学会. 2022,Vol.73,No.11,674-680.
- 5) 温川恭至, 清野透. 1.ヒトパピローマウイルスによる発がんの分子機構. ウイルス. 2008,Vol.58,No.2, pp.141-154.

森野 ひとみ (Hitomi MORINO)

2010年 金沢大学大学院 自然科学研究科博士後期課程修了
(学術博士)

2017年 神戸女子大学 大学家政学部 客員研究員

2022年 同志社女子大学 生活科学部 非常勤講師
同年 奈良教育大学 特任講師



【研究テーマ】

「組紐・PLLA（ポリL乳酸繊維）糸を用いた子宮頸部細胞採取ブラシの研究開発」
子宮頸がん検診に使用する細胞採取器具には、綿棒、ブラシ、ヘラ等があります。ブラシの現市販品素材は、樹脂ゴムやナイロン等化学繊維のものが大多数です。本研究では、PLLAを用いた細胞採取ブラシを作製し、PLLAのY異形断面糸と丸断面の両者の糸を使用し、各種組紐で作製した子宮頸部細胞採取ブラシ6種類【特許出願申請中】を用いて、吸着量を比較検討しました。今後は、各種ミサンガと各種組紐との吸着量の比較検討や自宅で細胞採取できる検査キットの開発を行います。

【趣味】

リズムックボクシング。YouTubeを見ながら毎日やっています。

【座右の銘】

思う念力岩をも通す。どんなことでも一心に思いを込めてやれば、必ずできるということ。

【今の研究分野を選択したきっかけ】

元々は織物の構造に興味を持ち、博士後期課程を修了するまでは織物の構造の研究をしていました。子宮頸がんの検査をする会社に入社したことをきっかけに、子宮頸がんと繊維を結びつけた研究開発がしたいと今に至ります。

【高校生のときにやっておけばよかったこと】

理科。研究者になって、理科（化学、生物、物理）を使うことが多くなったからです。

子宮頸がん検診受診向上のためのアンケート調査
－AYA世代を中心に－

著者 もりの 森野 ひとみ

2023年 3月31日 第1版

奈良教育大学出版会

〒630-8528

奈良市高畑町

TEL: 0742 (27) 9343 FAX: 0742 (27) 9147

E-mail: g-kenkyu@nara-edu.ac.jp

URL: <https://www.nara-edu.ac.jp/PRESS/>